

夢っくすニュース

No.5

2003年11月15日

UMEX NEWS **UMEX NEWS** UMEX NEWS

留学生の視点を通して魚沼再発見



稲刈り体験ツアー

—2003年9月27日 於：広神村中家—

留学生の「日本農業の体験がしたい」という一言から始まった稲刈り体験ツアーは、夢っくすの秋の定番行事です。今年は広神村中家の区長ならびに桜井悟様ご一家、永昌院の今井住職のご好意により実現しました。

多国籍の学生たちが働く様子を、参加者の一人は「多彩と調和」と表現しました。学生たちは作業の合間に、「単位あたりの収量は?」、「一俵あたりの値段は?」と盛んに質問を連発し、農機具の値段や、田んぼに隣接する養殖池の錦ゴイが時には一匹100万円にもなるという話を聞いて目を丸くしていました。帰国子女の日本人学生は、「稲刈

りをして僕はやっと日本人になれた気がします」。ニューヨークで経営コンサルタントをしていた留学生は、初めての泥まみれ体験から、「人間は自然とともにある」ことに気づいたと感想を述べるなど、稲刈り体験は、参加者それぞれに、思い深いものとなったようです。

作業の後は、桜井さんご一家が準備してくださった、新米のおにぎりや、ケンチン汁、ナスの漬物、エダマメをご馳走になりながら交流を深めました。昼食後は、永昌院を訪ね、今井住職の講話を聴きました。ルーマニアからの留学生は、母国にある荘厳な教会と比較して、「ここでは素朴さにこそ意義がある」と感想を述べ、今井住職の「私たちは初対面の人には、産まれたばかりの子供に対するように、微笑をもって接する」という言葉から、地球上の全ての人々がこういう考え方になれば、地球はもっと良い場所になるに違いないとレポートを書いてくれました。

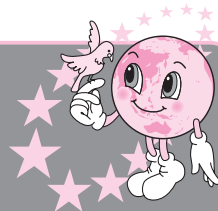
夢っくすでは、稲刈りのような魚沼ならではの企画を通じて、留学生に日本理解を深めて欲しいと願っています。実は、こうした機会を通じて夢っくす会員も日本再発見を楽しんでいます。留学生交流は、留学生の目を通して魚沼の長所と短所を客観的に知る機会を提供してくれるものなのです。皆さんも私たちと一緒に夢っくす活動をはじめませんか?



夢っくす紹介

うおぬま国際交流協会 (UONUMA Association for Multicultural Exchange: 通称 UMEX 「夢っくす」) は、魚沼地域の国際化と地域住民の異文化理解を促進し、多文化共生社会へ向けた開かれた魅力ある地域づくりを目指し、2002年2月に活動を開始し、同年5月26日に正式発足しました。

夢っくすの特徴は、留学生交流を地域づくりへと発展させることを構想し、設立の段階から地域と大学、そして大和町が協力連携していることです。2003年11月1日現在の会員数は、132名です。



トピック

- 1面 ●稲刈り体験ツアー ●夢っくす紹介
- 2面 ●活動紹介
- 3面 ●会員構成 ●市町村毎の会員分布
●ニュー企画「キッズサロン」 ●日本語・英語プログラム紹介
- 4面 ●夢っくすの楽しみ方
●修了生クリス君からのお礼状
- 5面 ●「未来を拓く子供たちへの贈り物」の参加レポート
●日本語学習支援の取り組みからネットワーク作りの必要性 ●魚沼地域の国際交流団体と姉妹・友好都市
- 6面 ●夢っくす誕生の背景と今後の展望
- 7面 ●平成15年度「文化庁日本語教育大会」参加レポート
●国際大学紹介
- 8面 ●夢っくす活動を支えるネットワーク・ツール
●第5期「日本語教方講座」受講生募集 ●入会案内

■ 新生歓迎会 9月13 - 14日

今年国際大学は9月中旬に51か国から104名を超える新生を迎えました。その多くが初めて来日する人たちで、休日に到着する学生もいると聞き、夢つくすで歓迎行事を企画しました。1日目は、夢つくすサロンでよろず相談を受け付けました。成田空港から送った荷物が届かないという学生や、電話の使い方が分からない、あるいはハンガーが欲しいといった学生が訪れ、来日間もない学生たちに少しはお役にたつたようです。入寮が一段落した後、大和町内をミニドライブ。このドライブでは、2年生の学生たちが通訳を引き受けてくれました。

歓迎会2日目のバーベキュー・パーティーは、天候にも恵まれ、参加者は100名を超えました。パーティー前に学生たちと一緒におにぎり作りをするという今回の企画は大好評で、参加型の企画の楽しさを実感しました。この歓迎会での出会いがこれから2年間の夢つくすと学生たちとの出発点になります。



クリス君（アメリカ）は毘沙門様に「お願い」

" 'Bishamon' temple was very simple and beautiful, capturing the essence of the Japanese spirit. After walking through the magnificently carved wooden gate and passing the temple's "guardian" statues, we went to purify our hands and mouths before entering the temple, itself. Inside the temple, we were allowed to pray for good fortune by giving a gift, ringing the temple's gong, and bowing slightly while asking for a favor from the kami-sama..."

アマタ君（インド）のバーベキュー・パーティ・レポート

"At the beginning, the UMEX president explained to participating students about importance of this party for the UMEX in general and for the Japanese society as a whole. He said that the Japanese people saw any welcome event as a lifetime opportunity. Hence, it is very important for UMEX members to welcome new students.

Most of the students actively participated in the preparation of the party especially in the making of "onigiri" the rice ball. Students also enjoyed baking and eating piece of beef, pork, chicken, and vegetables together with onigiri.

Normally in Japan people end the event by raising three times their hands in the sky and saying "banzai" simultaneously. At the end, one of the UMEX members explained this to students. Everybody happily took part in this tradition and ended the party with enthusiasm.

This party gave an excellent opportunity for local people to mix with IUJ community. New students were also able get a small glimpse of the Japanese culture and traditions."

■ ひまわりの会（新潟県車椅子の友の会）との交流会 7月27日

4月に大和町在住の方から、ひまわりの会と留学生との交流会を開きたいという相談を受け、実現した企画です。新潟県下から集まった15名の車椅子の方と留学生9名が、小出町のミヤグラントボウルでポーリングとバーベキューを通じて交流を深めました。留学生には、障害を感じさせない参加者のパワーと明るさ、障害者を支える多くのボランティアの姿が印象的だったようです。「私の国ではまだ障害者の支援体制は十分ではありません」と話す留学生に、「日本だって30年前は同じだったよ」とひまわりの会の方が答える場面もあり、楽しい中にも留学生には日本事情を学ぶ貴重な体験となったようです。

サン君（カンボジア）からのメッセージ

I really appreciated all UMEX members and all members of Niigata Association of Wheel Chaired. All of you did great job. I am not good in Japanese, so I cannot explain about my country well. However, I think I could give some pleasure to disable persons. This kind of associations and event are need for all aged people. I wish every country has like this kind of associations and all of the aged people can enjoy their life peacefully.

■ 異文化理解講座 「インドネシア編」 4月12日

インドネシアの学生と夢つくす会員が実行委員会形式で取り組んだ初めての企画です。当日は、駐日インドネシア大使館から会場を飾るガルーダ像やバリの伝統的な装飾品が届けられ、会場の大和町働く婦人の家をインドネシアの雰囲気は一変させ、40名を超える参加者を驚かせました。参加者は、インドネシアの学生や家族約30名が心を込めて準備したインドネシア語や文化の講義、インドネシア料理を堪能し、最後はダンスで汗を流し、終日インドネシアを楽しみました。

参加者からは、「学生たちの日本人に母国を知って欲しいという気持ち、そして彼らの明るい国民性に感銘を受けました」、「インドネシアが身近になりました」、「魚沼にいながらにして外国人の文化に触れることができるのが「夢つくす」のいいところですね。このイベントを企画し、運営してくれたインドネシアの皆さんに「テリマカシ・バニャ！（ありがとう）」といった感想が寄せられました。



2003年5月に国際大学を訪問されたアブドゥラ駐日インドネシア大使とインドネシア講座について懇談。大使からは、こうした文化交流には、今後も協力するとコメントをいただきました。

会員構成：132名

(2003年11月1日現在)

市町村毎の 会員分布

大和町	六日町	小出町	塩沢町	湯之谷村	広神村	堀之内町	十日町市	長岡市	川西町	小千谷市	守門村	湯沢町	所沢市	東京都
44	26	23	13	9	4	2	2	2	1	1	1	1	1	2

夢っくす会員は当初、日常的な活動に参加できる範囲として、魚沼地区に在住あるいは勤務する人を想定していました。しかし、参加の仕方にはさまざまな形態があることがわかり、夢っくすの目的、理念に賛同する方々を入会条件にしました。東京在住の会員さんからは、夢っくすで必要な資料を探していただいたり、翻訳、ホームページの掲示板への書き込みなどでご活躍いただいています。最近、海外で働く国際大学の修了生会員から掲示板にメッセージが届くなど、夢っくすネットワークが意外な広がりを見せています。

夢っくすに入会すると会員番号が通知されます。夢っくすでは年度毎に再登録をお願いしていますので、活動をお休みして再登録をすると、同じ番号で復活できるシステムをとっています。

ニュー企画

「キッズ・サロン」

夢っくすサロン部会では、本年度より子供向けイベントのキッズサロンを開始致しました。学生さんたちの中には家族と一緒に暮らしている人たちもいます。ところが、学生さん達は昼間は授業があり、休日にも外に出かける機会も多いと思われるが、その家族となると1、2年という短い期間である為、あまり日本文化に触れる事もないようでした。幸い私にも小さい子供がいまいましたので、昼間、子供を交えての交流ができればと思いキッズサロンを開くことになりました。

最初はどこの国の何歳の子供たちがいるのか、日本語がどの程度理解できるのか…等わからないままのスタートでしたが半年が過ぎて少しずつ状況の把握ができれば、月一回の開催が軌道に乗ってきました。

6月は梅雨、7月は七夕、8月は夏休み宿題サポート、9月は月見と毎月その月に合わせたテーマを決め、日本古来の行事や折り紙、紙芝居を使った読み聞かせ等を行っています。

子供達は皆んな素直で頭が良く、たとえ日本語が完全に理解できなくても、すぐに仲良くなったり、その好奇心を私達にむけてくれます。私達日本人も忙しい日常に忘れかけていた日本の行事を、違う国の子供達と共有する事により、日本の再発見にもなっているようです。

まだ走り始めたばかりのキッズサロンですが、この小さい輪が大きくなり、地域に根差していけるといいなと思っています。

小さなお子さんがいて、なかなか夜のイベントには出かけられないという夢っくす会員の方も是非一度キッズサロンを覗いてみてください。そして、こういう会を開いて欲しいというご意見、ご要望があれば事務局、または高橋までご連絡ください。

高橋 和子



日本語プログラム紹介

このプログラムは、国際大学の留学生とその家族に日本語を学ぶ機会を提供しようという試みから始まったものです。クラス形式とチューター形式があり、チューター形式では日本語がある程度話せる人と夢っくす会員が1対1で日本語での会話を通して異文化交流を楽しむことを目的としているので、英会話力や特別な資格などは必要ありません。むしろ、どっぷり日本語の世界に浸りたい留学生からは、日本語しかできない会話パートナーを希望されることすらあります。チューターは夢っくす会員ならどなたでも始めていただけますので、お気軽にお申し込みください。



英語プログラム紹介

異文化を理解するには必ずしも外国語が話せないといけない、というものではありません。とは言っても英会話ができればやはり楽しみは倍増します。

会員のほとんどは英語が十分ではないため、会員向けの英会話教室を週3クラス設けています。英語を勉強したいという動機で夢っくすに入会される方も多くなっています。



「言葉の壁」を日本人と外国人の双方の努力で低くしようというのが夢っくすの語学プログラムの目的です。

夢つくすの楽しみ方

国際大学開校20周年の年におぬま国際交流協会（夢つくす）が発足したことに、何か特別な意味を感じます。異文化に興味のあった私は、夢つくすのような会が設立されるのを心待ちにしていたので、夢つくす設立準備のときから参加しています。でも、私に何ができるのだろうと不安もありました。そこで、最初は週一回、夢つくすサロンの鍵当番を申し出ました。

昨年の夏には、日本語クラスも開講して、順調にさまざまな交流活動が広がってきています。「どこへいきたいですか?」、「あの山に登って世界が見たい」、日本語チューター・ペアの会話です。国際大学は世界を見たい人たちが登る山なのかもしれません。

今年もいろいろな国々から、たくさんの留学生たちが国際大学にやってきました。夢つくすサロンは、会員のアイデアで地域の歳時記、文化の紹介、留学生の母国紹介、英会話教室などの場となっています。留学生が日本語で自分の国を紹介するプログラムは、日本人学生の通訳の応援もあって、とても楽しいです。「体を動かし、心を動かす交流を期待する」と前国際大学学長・島野卓爾先生からのメッセージもありました。

「私のできること」は、サロンの鍵当番から、日本語チューターへと広がってきました。そして、長年続けてきた茶道に留学生が興味をもっていることが分かり、時々、茶道教室も担当させてもらっています。過日、わが家に茶道体験を希望する留学生たちをお招きしました。お床には、「円相無尽蔵」(注)の軸を掛けて、さまざまな人たちが一緒に楽しく暮らせることを願いながら、心を込めてお茶をたてました。これからも、こんなふうに、自分のできることで学生さんたちの思い出作りのお手伝いをしていこうと考えています。

篠田ヒサ

注：空・風・火・水・地の五要素を一筆で書くと円になる。宇宙全体の姿、世界究極の形、どこにも切れ目の無い世界、そう言うものを指す意「茶席の禅語」より。

夢つくすでは留学生向けに、茶道教室、華道教室、習字教室を開いています。この他にも会員さんの中には、ちぎり絵や着付け、日本舞踊、少林寺拳法、山登り、ラジコンヘリ、スキー指導、お料理、絵本の読み聞かせなど多種多様の趣味を持った方々がいます。そういう会員さんがいるからこそ、多様な学生の要望に応えることができます。皆さんのちょっと得意な分野で少しずつお力を貸していただき、夢つくすの活動を広げて行きたいと思います。



① 茶道教室



② 浴衣の着付け



③ 習字教室



④ ちぎり絵教室

夢つくすの皆さん、ありがとう。

修了生クリス君からのお礼状

My heartfelt thanks to UMEX and all its members, both from the local community and the students, who participate in this wonderful and important program.

As I look back at my life in IUJ I find myself indebted to UMEX for the meaningful orientation it gave me to the Japanese language, culture, society and life.

I can only thank the UMEX teachers for their tireless efforts and determination in teaching students (and their families, for those that are with family) Nihongo.

I thank the local UMEX community for the many cultural activities, trips and visits they willingly organize for students. At the same time I wish to congratulate the organizers and founders of UMEX who have done a remarkable job of laying the solid foundation on which future students at IUJ will have the opportunity to have first hand experience and knowledge of Japan, its culture and those of other nationalities represented by students participating in this Multicultural Exchange.

To those that may be visiting IUJ for the first time, I would not hesitate to recommend to you, and encourage you to visit the UMEX salon and see for yourselves, firsthand, the real Japan and multicultural society within IUJ. There is no better place to have a meaningful cultural exchange in Yamato-machi and its vicinity.

Chris CSN (IUJ graduate, class of 2003)

私はまず UMEX や、又この様なすばらしい重要な企画に参加された地域の方々及び学生の皆さんに、心から感謝したいと思います。

私自身、IUJでの生活を振り返りまして、いかに多くのことで UMEXのお世話になっているかを思い知らされているのです。それは、日本語のことだったり日本の文化のことだったり、あるいは UMEXの先生方には、お疲れもいとわず、学生や又その家族にまでも日本語をお教え頂きまして、本当に有難う御座います。

地域の UMEXの皆様には、多くの文化活動や旅行、或いは家庭訪問などを積極的にお引き受けいただきまして、有り難く感謝申し上げます。また同時に、UMEX 創立にご尽力された方々や設立者の皆様には、心からのお祝いを申し上げます。IUJの学生達が直接日本や日本の文化を体験したり、知識の吸収をしたりするだけではなく、学生の出身国が多様なだけに、それぞれの国やその多種多様な文化を交流する機会が持てる、UMEXはそのための基盤となるものです。

初めての方も、どうぞ一度お越しになって、勇気を出して UMEX サロンにお立ち寄り頂き、本当の日本と IUJ内の多様な文化を自分の目で見て頂きたいと思います。大和町周辺の文化交流の場としては、最高の所だと思います。(翻訳・酒井卓吉)

クリス・ニシンピ(2003年修了生・ザンビア)

夢っくす「異文化理解講座」

2003年6月28日 於：大和町役場

「未来を拓く 子供たちへの贈りもの」 参加リポート

浦佐小学校長 岡村 勝

講師の文化庁日本語教育調査官・野山広氏のお話の中から、印象に残った2点をご紹介します。

外国人・児童生徒の状況

日本語学習の必要な外国人児童・生徒の数は、2000年9月の統計で18,432人、うち小学生が12,240人、中学生が5,203人です。県別にみると、愛知県が2,413人と最も多く、続いて神奈川県、東京、静岡の順です。

外国人児童・生徒の教育問題を語るとき、どのくらいの確率で学校生活を継続しているかという「学校生存率」をみます。調査によると、日本人生徒の学校生存率93.2%に対して、外国人生徒は49.2%です。この数字は、外国人生徒の約半数が高校に行けずに、何らかの形で日常生活を送っていることを示しています。日本人生徒も中学校から高校にかけて、教科学習についていくのが大変になります。まして日本語が母語でない生徒にとって、高校進学がどれほど高いハードルになっているのかは、容易に想像がつかずます。

BICSとCALP

中学から高校へ移行する時期は、生活言語と教科学習で使う日本語の差が大きくなり、「抽象的・論理的思考」が要求され始めます。「抽象的・論理的思考」の発達、小学校から積み上げてきた言語学習が大きな影響を与えます。BICS（基本的対人伝達能力）は、日常会話に必要な言語能力で、CALP（認知・学習言語能力）は、授業で展開される抽象的思考を理解するうえで必要な言語能力です。CALPはBICSに比べると非常にゆっくりと発達します。

また、母語と第二外国語のCALPは相互依存的なもので、日本に滞在する外国籍児童の場合は、母語か日本語のどちらか一方でCALPの基盤を形成する必要があります。一つの言語で認知学習能力が形成されると、他の言語でのCALPの発達も容易になります。

野山氏は少なくとも子どもたちは5歳までは母語で生活させ、11-12歳頃までに第一言語で読み書きや抽象的な考えができるようにすること、「そうしないと両方の言語とも不安定になる」と強調されていました。また、日本人生徒の高校中退の背景には、日本人生徒の日本語CALPの未発達が原因としてあるのではないかと、という指摘が印象的でした。この研修会に参加して、子どもたちの未来を拓くうえで、言語学習環境を整えることがいかに大切かを再認識することができました。

日本語学習支援の 取り組みから ネットワーク作りの 必要性

北魚沼郡内には、日本人と結婚して海外から嫁いで来た方が60人近く暮らしています。そのうち28人の人達が熱心に、NPOシーターが今年1月から小出町公民館で開いている日本語交流教室に参加しています。この10ヶ月間は私たちシーターにとって、この地域に暮らそうとしている彼女たちに、何をどう教えたら良いのか試行錯誤の連続でした。

それでも参加者は、初めの頃の緊張した様子から、回を重ねる毎に明るく元気になってきて、私たちの取り組みもそれなりに役に立っているようです。それは交流教室が日本語を覚えるだけでなく、友人ができたり同国の人と母語で心置きなく話ができる、彼女たちの「心の居場所」になっているからだと思います。教室終了後も、いつまでもおしゃべりに花を咲かせています。皆さん教室を楽しみにしていて、「8月は夏休みです」と言うので、がっかりしていました。

私たちは今年の春、平成9年から日本語ことば教室（ことばのキャッチボール）をやっている津南町の公民館を見学させていただきました。シーターでは、そこで使われているカリキュラムも利用させてもらっています。最近、夢っくすでも、国際結婚をした方への日本語学習支援が始まりました。このように、魚沼にも日本で暮らすために、日本語学習を必要とする外国人の人たちが増えています。

私は、そろそろ魚沼も日本語学習支援を行っている関係団体のネットワーク作りが必要ではないかと感じます。また、行政も海外からこの地域に来た方々が、この地域に暮らす住民として、安心して暮らせる生活支援体制を考える時期にきているように思います。その際、各自治体が外国人支援をしている団体と連携して、外国人支援をするために必要な研修会（ビザや子どもが生まれたときの手続きなど）の開催などを検討していただきたいと思います。

住安 恵子



魚沼地域の国際交流団体と姉妹・友好都市

財団法人新潟県国際交流協会の『国際交流関係団体一覧』（平成15年3月改訂）には、平成15年3月現在で166団体が登録されています。

国際大学近隣では次のような団体と姉妹・友好都市情報が掲載されています。なお、SFC（スノー・フレイクス・クラブ）は、同一覧には掲載されていませんが、浦佐小学校の外国人児童を対象としたアフタースクールや国際大学留学生との交流会を開いています。

	国際交流団体名	姉妹・友好都市
塩沢町	塩沢ニュージランド友好協会	リレハンメル市（ノルウェー）
	塩沢町日韓友好協議会	セルデン町（オーストリア）
	新潟県日澳協会	アシュバートン郡（ニュージーランド）
六日町	ホワイトピア国際交流協会	
	うおぬま国際交流協会（夢っくす）	
	大和町アジア交際交流の集い	
入広瀬村	SFC	湾頭鎮（中国江蘇省揚州市）
		コモ市（イタリア）
十日町市		驪州郡（韓国京畿道）
津南町		

※姉妹・友好都市は平成15年1月1日現在

夢っくす誕生の背景と今後の展望

夢っくす事務局 武田 里子

1 橋渡し役の必要性

国際大学は、1982年に教育言語を英語とする日本初の大学院大学として開学しました。現在、2つの研究科（国際関係学研究科と国際経営学研究科）で、4つのプログラム（国際関係学、国際開発学、MBA（国際経営学）、Eビジネス）を提供し、約300名の学生が学んでいます。学生の8割を世界51か国からの留学生が占めていることが、国際大学の存在を他大学との比較でユニークなものにしています。

今年3月、大和町公民館で東京大学教養学部関連社会科学研究室の「新潟県大和町の暮らしとまちづくりに関する学術調査」の最終報告会が行われました。その中で2000年11月に実施した国際大学の留学生19名（11か国）の面接調査を元に、「国際大学で学ぶ留学生は日本を専門的に研究するつもりはないが、日本に興味がある。しかし、現実には日本人との交流の場が少なく満足していない。交流を阻害している要因は、言葉の壁と橋渡し役の不在ではないか」と報告されました。

つまり、国際大学の留学生も、大和町の多くの人々も留学生との交流を望んでいるものの、交流の方向性にズレがあり、また、交流の場そのものが少ないために、十分な交流が行われていないというのです。日本語と英語という言葉の壁を抱える留学生と地域住民との交流を成立させるためには、「橋渡し役」が必要であり、「誰がどのような交流を望んでいるか」という情報を把握する人、または組織が必要だと指摘されました。

2 夢っくすの誕生

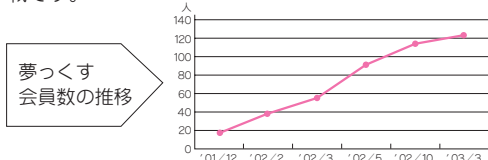
この調査が行われていた頃、私は、留学生の生活支援の現場で、学内で支援できることの限界と、英語プログラムで学ぶ留学生の日本留学の意味について疑問を感じはじめました。国際大学では、日本語ができなくても学内で困ることはありません。でも、一步、学外にできれば日本語ができるかどうかによって、留学生の日本理解は大きく違ってきます。

留学生の生活支援を充実させるためには、地域社会のサポートが不可欠ですが、大学や留学生が一方向的に便益を受けるものでは長続きしません。活動を継続的なものにするためには、双方に有益と感じられるような関係を築かなければなりません。結果として、東京大学の研究グループが指摘した「橋渡し役」として、私たちは夢っくす構想を固めていくことになりました。

構想実現に必要な財源は、(財)日本国際教育協会が募集した「留学生地域交流支援事業」の助成金によって確保しました。国際大学からは、学内に活動拠点（通称、「夢っくすサロン」）の無償提供を受け、夢っくすと学内の教職員・学生との連絡窓口を学生センター事務局が担当することについて許可を得ました。この2つが夢っくすの組織作りには大きな力を発揮したことは言うまでもありません。

3 急速な組織拡大

夢っくすの会員は、2002年2月の募集開始からわずか半年で100名を超えました。私たちの予想を越える会員の急増は、夢っくすを全員顔見知りの「同好会」的組織から、地域の国際化など「社会的役割」を意識したNPO的志向を持った組織へと脱却を迫ることになります。個人的な交流要求を満たすことと、そのための組織づくりや組織運営とは全く次元の異なる挑戦です。



100名を超える会員を抱える組織にとって「全員で行動する」活動形態は物理的に成立しません。「できるヒトが、できるコトを、できるトキにする」緩やかなネットワーク型組織が、常設の事務局をもちにいかにかに成立しうるのか。これが、夢っくすが抱える最大の課題です。

4 夢っくすの特徴

夢っくすの会員数は132名（2003年11月現在）ですが、年度毎の登録制をとっていますので、通算した会員登録者数は180名を超えました。夢っくすの会員構成は、年齢的には20代前半から70代まで、職業は学生から主婦、公務員、会社員、自営業と多様です。また、一般的に女性中心になりがちな国際交流団体の中にあつて、夢っくすでは男性会員が4割近くを占めます。この多様性が夢っくすの多様な活動を支え、また、留学生の日本理解をバランスの良いものになっているようです。

夢っくすは6つの部会を中心に活動していますが、その中で、継続的かつ定期的な交流を担っているのが、週2回のサロン活動と日本語プログラムです。

国際大学でも正規科目として日本語プログラムを提供しています。しかし、英語の力が弱い学生や提供されるクラスのレベルが合わない学生は、正規科目の日本語を受講できないことがあります。夢っくすは、そうした留学生たちや留学生家族、地域に暮らす外国人が日本語を学ぶ場となっています。将来的には、国際大学と夢っくすの日本語プログラムの補完関係がさらに発展し、相乗効果が生まれることが期待されます。

活動開始から1年半が経過し、留学生と夢っくす会員との関係が、夢っくす活動を成立させるためのパートナーシップへと変化の兆しを見せていることを嬉しく思います。今年9月の新入生歓迎会では、2年生の留学生たちが夢っくす会員とともにホスト役を担い、また、日本語の力をつけた留学生たちが日本人学生とともに、夢っくす会員のコミュニケーション・サポーターとして活躍する姿が印象的でした。

5 今後の展望

今後も国際大学から活動拠点と連絡窓口の支援があれば、人的にも財政的にも基礎的な夢っくす活動を維持できる見通しです。従って、夢っくすの今後は、ボランティア組織の定着の成否にあると思われます。ボランティアは、基本的に趣味で、好きだからやるものであり、何より楽しくなければ続きません。しかし、そのボランティア組織の活動を維持するためには、活動主体がボランティアであるからこそ、マネジメントやコーディネートが必要になります。今後、夢っくすをどのように維持していくのか、いけるのか。この点については、まだ不確定要素が大きいように感じます。

夢っくすは、留学生交流を多文化共生の地域づくりへ広げていくことを、設立の段階から構想していました。魚沼域においても、外国人花嫁とその家族、外国人児童・生徒など、日本語学習支援の必要な外国人住民の問題が表面化しつつあります。将来的には行政と連携して、そうした人々への支援体制の整備に留学生交流で蓄積したノウハウを役立てることができればと考えます。

全国的に見ても、夢っくすのモデルになるような先行事例はありません。従って、夢っくすの展望は、夢っくすに適した活動形態の模索や、夢っくすの目的や理念に共感する人たちの輪を広げるなかから見出す以外にないのだと思います。



平成 15 年度 「文化庁日本語教育大会」 参加レポート

おおひら悦子

8月5日、6日の2日間、東京で開催された文化庁主催の「日本語教育大会」に参加しました。この大会は、日本語教育に関するシンポジウム・研究協議会を通して日本語教育に対する理解の増進を図り、日本語教育の水準の向上とその推進を目的としたものです。主に東日本各地から日本語教師をはじめ、地方公共団体や国際交流協会の日本語関係担当者、地域に住む外国人に日本語を教えているボランティアなどが多数参加しました。

1. 国内における日本語教育の現状

ここ10年ぐらいの間に外国人登録者の増加に伴い、地域でのコミュニケーション言語としての日本語教育の重要性が年々高まってきました。

行政の取り組みだけではフォローしきれなくなり、このような日本語学習者の増加と多様化に対応するために、各地域で日本語を教えるボランティアの活動が活発になったのです。国としても平成13年になって初めて「地域における日本語教育の充実」を法に盛り込み、文化庁、文部科学省、外務省などが取り組みを始めたところです。

2. 日本語学習者の体験発表

第二言語として日本語を学習した人からその体験を聞こうということで、地域の日本語教室で日本語を習得した4名の方の発表がありました。

中国から秋田県の田舎にお嫁に来て7年。今では地元の活動でサポーター的役割を担うほどの活躍をしている30代女性。ブラジル生まれの日系2世で家庭では日本語を話していたものの、技術研修のため初来日し、自分の日本語能力の不十分さと、知らなかった日本の生活習慣に戸惑ったという群馬県に住む女性。1991年の来日以来、日本語を学び、現在スペイン語講師や地域の国際交流活動に取り組んでいるメキシコ生まれの女性。1983年カンボジアを出国後、難民キャンプを経て来日。現在通訳として活躍中の男性。これらの方々が直接語ったご自身の工夫やつまづき、要望などは、日本語学習者を支援する立場において大変参考になりました。



3. 日本語ボランティアが留意すべきこと

日本語学習経験者の発表を受けて、日本語教育の専門家の皆さんがパネルディスカッションで意見を述べられました。私は次の3つの点が大変印象に残りました。

1つは、日本語学習者を支援する側がもっとも大切にしなければならない点は、学習者の興味や欲求レベルに添うということ。そのためには学習者の気持ちが把握できる能力（分析力・観察力）を持っていないければなりません。興味がある分野を話題の手がかりにすることで導入がスムーズにいくでしょうし、一方的な押し付けだと学習者はついてきません。間違った発音を指摘する場合は、正確な日本語を身に付けたいと思っている学習者なら指摘を素直に受け入れられますが、なんとか通じればいいと考えている学習者なら細かい指摘は嫌だと思われるかもしれません。その見極めをしながら進めていく必要があります。

2つめは、特に日本に来て間もない学習者の場合、日本語学習のプロセスが心の安定につながっているのが望ましいということ。学習の場へ来るたびに、受け入れられている安心感を得たり、地域の日本人との交流が進むようすくに使える学習内容で自信を持ったりなど、毎回来てよかったと感じられる日本語学習の場でありたいものです。

3つめは、異文化を理解する上で「表現の仕方はさまざまでも、気持ちの根っこはみんな同じなんだ」という捉え方をすべきだということ。例えば、外国人がよく変に思う日本の習慣ですが、誰かにお世話になった時に充分お礼を言っても、何日後にまた「この間はありがとうございました」とお礼を言います。このようなことについて「おかしいよね」「変でしょう」と違いを強調するのではなく、「深い感謝の気持ち」という根っこは同じなんだよ、と説明したほうがいいのです。

日本語が話せるからといって、それをすぐに教えられるというものではないし、外国語ができるからといって、日本語を教えるのも楽だということでもありません。日本語学習者を支援する側は、人と人が互いに尊重し合うコミュニケーションの基本を忘れてはならないのです。

4. 夢っくすにおける日本語支援

これまでのところ「夢っくす日本語プログラム」のねらいは、国際大学の留学生あるいはその家族が2年間という限られた期間に、地域の中で日本人との交流を通して日本の文化や習慣に触れてもらうためのサポートをするというものです。地域の中で生きていくために必死で日本語を学ばなければならない学習者を支援している方々に比べれば、ある程度恵まれた状況にある外国人との異文化交流ができる私たちは、苦勞より楽しさのほうが大きく、他の国際交流団体より恵まれている点も多いです。

しかし、魚沼地域には海外からお嫁に来て、日本語ができないために地域に馴染めないどころか、家族とのコミュニケーションさえままならず困っている方が少なからずいます。日本語学習を緊急に必要としているこのような方たちに、経験の浅い私たちがどのようにかかわっていったらよいか今後の課題です。

国際大学紹介

国際大学（International University of Japan、略称IUJ）は、1982年に国際社会に貢献するために必要な専門的かつ実践的な知識と異文化適応能力をもった人材育成を目的に設立されました。大学院大学という設置形態、教育言語を英語としたこと、留学生を広く世界各国から受け入れる政策をとったこと、全寮制を前提としたこと、9月入学制など、いずれも当時は日本では初めての試みでした。IUJには国際関係学研究科（2年制の国際関係プログラムと国際開発プログラム）と国際経営学研究科（2年制のMBAプログラムと1年制のEビジネス経営学プログラム）の2つの研究科があり、300名弱の学生が学んでいます。学生の8割を世界51か国からの留学生が占めていることが、ユニークな学習・研究環境を提供しています。

夢っくす活動を支える ネットワーク・ツール



<http://umex.ne.jp/>



夢っくすプログラムには、一般公開のもの
と会員向けの2種類があります。会員限定プロ
グラムには、英会話教室やパソコン研修、「日
本語の教え方講座」などがあります。
夢っくす会員には、活動予定などが掲載され
た月刊「かわらばん」が届けられ、電子メール
でもタイムリーな情報提供が行われています。
また、夢っくすホームページは、夢っくすから
の情報提供だけでなく、「掲示板」での情報交
換が活発に行われています。皆さまのご意見、
ご提案をお待ちしています。

第5期 「日本語の教え方講座」 受講生募集

夢っくすの日本語プログラムは、(株)アルクの通信講座「日本語の教え方・
短期実践講座」(受講期間6ヶ月、受講料39,000円)を修了した方を中心に
運営されています。同講座の第5期生を1月に募集します。

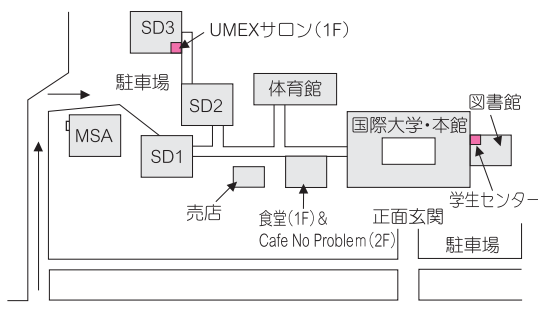
同講座を修了し、日本語交流員に登録して3ヶ月(週1回、1時間半程度)
を1期とし、年2回以上レッスンを担当することを条件に、受講料のうち
29,000円を助成します。詳細は、「1月号かららばん」に掲載しますので、奮っ
てご応募ください。応募者多数の場合は、多言語部会で選考の上、決定します。

入会 案内

留学生交流を通じて、地域の国際化や多文化共生社会へ向けた魅力ある地域づくりを目指す夢っくすの目的に賛
同される方の入会をお待ちしております。年会費は個人会員3,000円、家族会員1,500円、法人及び団体会員
は1口1万円以上任意の口数です。入会は随時受け付けておりますので、下記の郵便局口座に会費をお振り込み
いただくか、事務局までご連絡ください。

◆口座番号：00550-7-74672

◆口座名称：うおぬま国際交流協会



うおぬま国際交流協会

〒949-7277
新潟県南魚沼郡大和町大字穴地新田777番地
国際大学内 夢っくすサロン
TEL: 025-779-1439/025-779-1520
FAX: 025-779-1180
<http://umex.ne.jp/> E-mail: office@umex.ne.jp

